

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 11月 28日

【評価実施概要】

事業所番号	0173501305		
法人名	医療法人社団 倭会		
事業所名	グループホーム しづく		
所在地	登別市柏木町4丁目24番地9 (電話) 0143-81-6160		
評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成21年11月26日	評価確定日	平成22年1月20日

【情報提供票より】 (平成 21年10月23日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 18年 3月 22日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 16人 非常勤 1人 常勤換算	16.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1階建ての	1階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000円	その他の経費(月額)	水道光熱費 15,000円 暖房費(10~3月) 5,000円	
敷金	有() (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 1,200 円			

(4) 利用者の概要 (11月 26日現在)

利用者人数	16名	男性	3名	女性	13名
要介護1	5名	要介護2	1名		
要介護3	5名	要介護4	3名		
要介護5	1名	要支援2	1名		
年齢	平均 87.3歳	最低	80歳	最高	98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	開田医院、ミネルバ病院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅地にある平屋建て2ユニットのグループホームで、各ユニットが広くお互いの利用者、職員が交流しやすい造りとなっています。共同の相談室、各ユニットの予備の個室があり多様な対応ができています。職員は比較的若い方が多く、明るく親しみやすい。また連携も取れており、離職も少なく、利用者の安心に繋がっています。自己評価は職員全員が記入し、意見を出し合っておりまとめています。日頃の外出や地域との交流が活発であり、特に近所の「子育て支援の会」との交流が利用者の楽しみになっています。利用者のアルバムを作り家族に提供することで喜ばれています。また、通院支援や訪問看護など医療面の支援も充実しています。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価の「取り組みを期待したい項目」については、特に災害対策など意識して取り組んでいます。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は職員全員に用紙を配布し、ユニット毎に会議を開催、意見交換をしてまとめ、職員の意見が直接反映されています。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2ヵ月に1回のペースで開催され、地域の会館での子育て支援の会の開催日に合わせて開催するため、地域住民の方々も毎回多数参加していただいています。行事や事故報告、サービス評価もテーマに取り上げ、活発な意見交換が行なわれています。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>年に1~2回、家族会を開催し意見を聞いています。玄関にアイデアボックスを設置しているほか、玄関近くに面談室を設け、利用者に見えない形で家族と相談できるようになっています。重要事項説明書に外部の苦情受付機関を明示しています。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>普段から地域の方々や利用者が顔見知りになっています。町内会に加入しホームだよりも回覧しています。また近所の会館(こぶしの家)での「子育て支援の会」の行事に利用者が毎週参加し、子供たちと交流しています。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念の中に「地域社会に貢献する」という文言があり、地域との関係を重視しています。しかし、利用者が地域の中で関わりをもちながら、その人らしく生活することと解釈するのは難しい面があり、付加的な解説が必要です。	○	理念に加えることが難しい場合は、方針やパンフレットの解説の中で、地域密着型サービスとしての意味を示すことを期待します。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念および方針は、玄関や事務所など見やすい部分に掲示されており、パンフレットにも明確に記載されています。職員も理念および方針の内容を理解し、常に心がけて業務にあたっています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	普段から地域の方々と利用者が顔見知りになっています。町内会に加入しホームだよりも回覧しています。また近所の会館（こぶしの家）での「子育て支援の会」の行事に利用者が毎週参加し、子供たちと交流しています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員に用紙を配布し、ユニット毎に会議を開催、意見交換してまとめ、職員の意見が直接反映されています。前回の外部評価の「取り組みを期待したい項目」についても意識して取り組んでいます。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヵ月に1回のペースで開催され、地域の会館での「子育て支援の会」の開催日に合わせて開催するため、地域住民の方々も毎回多数参加しています。行事や事故報告、サービス評価もテーマに取り上げ、活発な意見交換が行なわれています。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に地域包括センター職員の参加をいただいているほか、ホームだよりを市役所に配布しています。包括支援センターで年に3回程度、市の管理者会議が開催され、センター職員と情報交換しているほか、管理者がキャラバンメイトの講師を引き受けることもあります。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪が頻繁にあり、その際に報告を行なっています。また、ホーム便りを毎月作成し、金銭報告や請求書とともに家族に送付しています。その他、利用者一人ひとりのアルバムを作り家族に提供したり、お手紙をお渡ししています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1～2回、家族会を開催し意見をいただいています。玄関にアイデアボックスを設置しているほか、玄関近くに面談室を設け、利用者に見えない形で家族と相談できるようにしています。重要事項説明書に外部の苦情受付機関を明示しています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員同士の関係が良好で、離職が最小限に抑えられています。ユニット間の異動はありますが、日頃からユニット同士の交流があり、馴染みの関係になっているため問題は起きていません。仮に退職がある場合は、利用者にはきちんと伝えており、ダメージが起きるケースはありません。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市内グループホーム共同の研修や西胆振地区の広域連絡会の研修など、多数の外部研修の機会があり、それぞれの職員に参加の機会が確保されています。研修資料は職員間で共有化されています。資格取得も奨励しており、シフト調整などの面で支援しています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は市の包括支援センターで開催される管理者会議に参加し、同業者と交流する機会を持っています。職員は広域連絡会の研修で、他のグループホーム職員と交流する機会がありますが、勉強会や相互訪問などの活動はまだ実施されていません。	○	地域の他のグループホームや系列グループホームなどと、職員同士の勉強会や相互訪問を行なうなど、お互いのサービスの向上に繋げるような取り組みを期待します。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ほとんどの場合、入居前に利用者に見学に来ていただき、納得したうえで入居しています。利用者が来られない場合は、管理者や職員が病院等を訪問し、馴染みの関係を築くようにしています。ホームに早く馴染めるよう、利用者に応じて家族と一緒に宿泊していただいています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	若い職員が多く、利用者に料理の方法や昔話、戦争の話などを教えていただく場面を多く作っています。職員が働いていると「いつもありがとう」「体を大事にしてね」といった声かけをしていただき、支え合う関係が築かれています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の利用者の仕草や表情、家族との話し合いの中から、利用者の意向を把握することができます。過去の生活歴などは、入居予定者事前調書や入居者状況シートにより、情報が蓄積されスタッフが共有しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	当初の作成時に利用者や家族の意見を聞き、職員等の意見を踏まえ、話し合って介護計画が作成されています。一方、計画には家族の希望や意見を記す欄がなく、希望や意見が見えづらくなっています。また日々の記録も介護計画との関連づけがやや不十分です。	○	介護計画に家族の希望や意見を記す欄を設け、希望や意見を見えやすくすることが望まれます。また、日々の記録も介護計画の項目を意識した方法にされるよう期待します。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヵ月毎に介護計画の見直しが行なわれており、利用者の状況に応じた見直しも実施されています。家族の意見やユニット毎の特記事項に記された意見を参考にカンファレンスを行ない、見直しがされています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や買物支援が充実しています。各ユニットには1部屋余分に個室があり、家族等の宿泊に対応できるほか、ショートステイの実施を申請する予定です。月1回の訪問理美容も実施しています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携体制をとっており、週1回の訪問看護を受け医療機関と連携しています。また利用者のかかりつけ医への通院支援も行っており、受診結果については、電話やFAXにて家族に報告しています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療行為が発生するまでは、できるだけホームで過ごしていただく方針としており、「重度化および看取り介護に関する指針」を作成し、家族に説明しています。また利用開始前に家族の意向について「急変時希望書」にて確認しています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーを尊重し、トイレ誘導や着替えの際も言葉を選びながら、慎重に対応しています。個人記録等は事務所など、利用者の見えない場所に保管しています。また訪問者の名簿は個別シート方式としています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの都合を優先することなく利用者の体調や希望、ペースに合わせた生活支援を行なっています。ユニット内は広いため、利用者一人ひとりの居場所があり、職員が理解して尊重しています。利用者のペースに合わせすぎて昼夜逆転しないように配慮しています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が利用者と一緒に会話しながら、楽しく食事をしています。食事の準備、食器洗い、食器拭きなど、利用者の協力をいただいています。ユニット毎に献立が作られ、利用者の希望も取り入れています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴することができ、週2回程度を目処に入浴しています。午後の時間帯が多いですが、希望があれば午前中や夜間の入浴にも対応しています。入浴を拒む場合は職員を替えたり、別の時間帯にしたりして解決しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事や、食器洗い、食器拭きなど、利用者が自分の役割を認識して、手伝っていただいています。近所の老人クラブに毎週通っている利用者もいます。近所の方がフルーツや三味線の演奏、踊りや手品の披露に来ていただいたり、「子育て支援の会」との交流で気晴らしができています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩は毎日のように行なわれ、近くのスーパーに利用者と共に、1日おきに買物に行っています。花見や紅葉狩りなどの行事も開催されています。近所の会館にも頻繁に訪問しています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各ユニットの入り口、玄関とも鍵はかけていません。玄関付近に事務所があり、外出が把握できますが、事務所が不在の場合は、玄関のセンサーマットのスイッチを入れ、ユニット内でも分かるようにしています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、日中および夜間を想定した避難訓練を実施しています。多くの職員が近くに住んでおり、緊急時には、すぐに対応できます。また年に1度、救急救命訓練を行っており、職員や住民の方々が参加しています。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立はユニット独自で作成していますが、カロリーや栄養バランスなども把握し、半年に1度程度、運営法人の管理栄養士によるチェックをいただいています。また、生活記入シートに食事や水分の摂取量を記録しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間が非常に広く、庭に面した大きな窓や天窓があり開放的で、利用者一人ひとりが居場所を確保しています。一方、個室との間には斜めの壁があり、程よい距離感が保たれています。温度や湿度、光や音も調節されており、気になる点はありません。トイレや浴室も使いやすく造られています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は広く、備え付けのクローゼットが設置されています。利用者の馴染みの家具や生活用品が持ち込まれ、安心して過ごせる場所となっています。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。